



学校だより

2月号

横浜市立大道小学校

令和2年1月31日

学校ホームページ：[横浜市立大道小学校](#)

検索 

校長 加藤 和之

「Give Happiness」

春の陽気が待ち遠しい今日この頃です。皆様いかがお過ごしでしょうか。本校では、「インフルエンザ」が流行する兆しも見られず、子どもたちは元気に毎日を過ごしています。しかし、油断はできません。今後も、うがいや手洗いの励行などをしっかりと行えるよう、声をかけていきたいと思ひます。

さて、私は前任の富岡校長先生が書かれた「学校だより」を読ませていただくことがあります。昨年2月号では、「ディズニーランド」の「ナイトカストーディアル」（夜の清掃員）にふれながら、「ホスピタリティーマインド」について書かれています。それを読みながら、以前、研修で聴いたディズニーランドについての話を思い出しました。

ディズニーランドの理念は、「Give Happiness」（幸せの提供）です。これを実現するため、ディズニーランドで働く全「キャスト」には、3つの「約束」があるそうです。

- | | | |
|---|--------|--|
| 1 | ごみを拾おう | Give your step for picking up trash ahead. |
| 2 | 写真を撮ろう | Give your one finger for taking pictures. |
| 3 | 案内しよう | Give your call <u>for your happiness.</u> |

直訳すると、一つ目が「ごみを拾うために、あなたの一歩を提供しよう。」、二つ目が「写真を撮るために、あなたの指を提供しよう。」、三つ目が「あなたの幸せのために、あなたの案内を提供しよう。」となります。その約束も、素敵な言葉です。ごみを拾っても、写真を撮ってあげても、ゲストから「ありがとう」と言われます。この「ありがとう」が、ディズニーの理念、「Give Happiness」につながるというのです。そして、そのために、キャストとゲストの「相互ありがとう」の場を創造しているということでした。ゲストに「幸せ」を提供することが、あなた(キャスト)の「幸せ」にもなるというのです。ですから、約束の三つ目が「あなたの幸せのために」となっているのでしょう。

たくさん子どもたちが一緒に生活するのが学校です。子どもたちが「自分以外の人」を意識し、ちょっとした心遣いをして生活することができれば、学校が誰にとっても気持ちのよい場所になります。「自分のため」に「自分が好きなこと」だけをやるよりも、「人が喜ぶように」「みんなのために」やる方が大変ですし、難しいものです。しかし、「人が喜んでくれること」が、「私自身も嬉しい」と子どもたちが思えるようになれば、生活がより楽しく、豊かなものになると思ひます。人と人との「心のつながり」が広がっていきます。まさにディズニーの「相互ありがとう」の考え方です。異学年交流の「なかよし活動」で、高学年の子が低学年の子のことを考える場面でも、休み時間の「きまり」を守ったり、ゆずり合ったりする場面でも、子どもが「自分以外の人」のことを意識できるよう、私達も支援していきたいと思ひます。